



天輪寺月光

良い椿が欲しいとのお客様の強い要望で、各地を探したところ、幕末の大茶人で有名な松平春嶽こと不昧公の島根県の松江に、原種に近いすばらしい椿を、見つけることが出来ました。さすがに大茶人の居る所だけあって、良い茶花が有るもので、ここに二種ばかり、本誌を借りて紹介したいと想います。

植えるなら？  
今でしょ！

木へんに春で椿。  
俳句でも椿は、春の季語です。では何故、夏号で？  
と思つことでしょうかね！  
開花期が花の少ない冬から早春にかけて、でも植えるなら、そう！今でしょ！



(有)林庭園設計事務所  
〒193-0823 東京都八王子市横川町991-6  
Tel:042-622-8840

再刊 VOL.3



村下 (むらげ)

茶花の椿と言えば、直ぐ、「侘助」となるところですが、紹介の二種は、「天倫寺月光」と「村下」と命名された写真の様な花です。

「天倫寺月光」は、濃紅色の一重咲で、花期は11月から3月位で、ヤブツバキの変わりもので、雄しべの葯という部位が白色であるのが特徴です。

酒を呑むときの猪口の様なラップ咲で、近種の「月光」に似てることと、発見された所が、松江市の天倫寺であることから、命名とのことです。

もう一種は、「村下」で、第一希望は「角の光」としていたのですが、同系統の「村下」となったとの経緯です。

松江といえば、神話の「ヤマタノオロチ」で有名で、その砂鉄を溶かし作る、タタラ製鉄のあの赤い炎の



白侘助

濃い色の花色からの命名で製鉄技師の名から「村下」と、したそうです。皆様もこんな名品をご要望の折りは是非に！



葉っぱの様子が変です。病気なのでしょうか、木は枯れないでしょうか？  
のご相談が有りました。

調べたら、「虫こぶ」または「虫瘻」というもので、ダニやタマバエの幼虫などが寄生したもので、

虫が出す刺激に反応し植物の一部、特に葉が異常成長して出来たもので、これが原因で枯れたとはあまり聞きません。

問い合わせの、お客様のものは、榎で、寄生したのは、「エノキハトガ

リタマフシ」というもので、葉に、びっしりと、それこそ尖った「虫こぶ」が付いていました。この「虫瘻」で良く知られているのが、柘（つげ）同様、櫛によく使われる、マンサク科の「イスノキ」又は地方によると「ヒヨンの木」と呼ばれるもので、アブラ



榎の木の虫こぶ

ムシ類の出す、タンニンによるものです。見た目は悪いが枯れない。



先日（6月5日）西放射線通り、スクラングル交差点の広場に於て「八王子環境フェスティバル」が行われました。弊社も、その一画にブースを持ち、今や各地域の厄介者と成った

“竹林”を、極上の肥料に産まれ変えさせた、「竹パウダー」をメイン商品に参加致しました。この「竹パウダー」は以前にも紹介しましたが、山梨県のモモ園が、モンパ病により廃園寸前でこのパウダーのおかげで三年で復活したとの話や、福島県、二本松のリンゴ園のリンゴの糖度が十六度になった等々各地で、特に農業の方で実績を上げて話題になったもので、もちろん、庭の植物にも良好です。

その他寄せ植えなどのワークショップで、盛り上がりました。紙面を借りてお礼申し上げます。